

## ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番八短調 Op.37

《ピアノ協奏曲第3番》が完成されたのは1803年。だが、最初の構想が生まれたのは1796年とされているので、「ハイリゲンシュタットの遺書」をまたいでこの曲が作曲されたことになる。「遺書」から「傑作の森」への話は、シチエドリンの項を参照していただきたい。ピアニストとしてのベートーヴェンは、当時ウィーンで流行していたような手首から先を使った軽やかなタッチとはまるで違う、腕全体を振り下ろすような迫力あるタッチで演奏したと言われるが、その演奏スタイルは作品そのものにも影響した。ピアノがオーケストラの中にしっかりと組み込まれ、両者が対等にわたりあう、重量感のある協奏曲である。作曲中には、フランスのエラール社から、新しい構造により重厚な音が出る新作ピアノが贈られており、その性能も作曲に大きな刺激を与えた。初演は1803年4月5日、ベートーヴェンによるピアノ独奏で行われた。曲は、第1楽章「アレグロ・コン・ブリオ」八短調、第2楽章「ラルゴ」ホ長調、第3楽章「ロンド、アレグロ」八短調で構成されている。

遠山菜穂美

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

楽器編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、  
トランペット2、ティンパニ、弦五部、独奏ピアノ

※スコア上の表記